

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	13-081	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Lifetime and twelve-month prevalence of heavy-drinking in Singapore: results from a representative cross-sectional study.</p> <p>シンガポールにおける生涯または12カ月の多量飲酒割合：シンガポールの代表集団における横断研究の結果より</p>		
執筆者		
Lim WY, Subramaniam M, Abdin E, He VY, Vaingankar J, Chong SA.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2013 Oct 21;13:992. doi: 10.1186/1471-2458-13-992.		
キーワード		PMID
多量飲酒、アルコール中毒、QOL(生活の質)、精神疾患併存		24499269
要 旨		
<p>目的： 本研究は多量飲酒者の割合を明らかにし、多量飲酒と社会人口学的要因、身体・精神状態の関連の評価、また多量飲酒がQOLと労働損失日数に与える影響を評価することを目的とした。</p> <p>方法： シンガポール国民を代表する6,616人の一般住民を対象として、世界精神保健の統合国際診断面接(CIDI)と視覚的アナログ尺度(EuroQol 5D)を用いて横断調査を実施した。女性では1日4杯以上、男性では1日5杯以上の飲酒者を多量飲酒者と定義した。</p> <p>結果： 成人シンガポール住民の12.6%は過去12か月間の多量飲酒者で、15.9%は生涯多量飲酒者だった。多量飲酒の有無は、性、人種、年齢、収入と関連していた。多量飲酒はうつ病、気分障害、慢性疼痛と正の関連を示し、またアルコール依存症、アルコール乱用、ニコチン依存症と強い関連を示した。また、EuroQol 5Dを用いた評価では、多量飲酒者は、多量飲酒者ではない者に比べて、低いQOLを示した。</p> <p>結論： シンガポール住民の多量飲酒者の割合は過去12か月間で12.6%、生涯では15.9%と比較的高かった。多量飲酒は心身ともに影響し、QOLを低減させた。多量飲酒者の振る舞いを引き続き監視し、多量飲酒行動につながる危険を軽減する試みが必要である。</p>		